



「昨今の浜松の起業事情」

チーフインキュベーションマネージャー 大木 誠

4半世紀ぶりに浜松に戻り、インキュベーションの仕事始めて1年が経つ。

さすがに「・・・らー」という遠州弁を聞く機会もめっきり減った。どこの地方もそう思うが、言葉だけでなく町並みも人々も地方色が薄れ、併せて浜松らしさも薄れてしまっていると感じた。とくに、かつて起業家のメッカと思っていた遠州がすっかりおとなしくなってしまったと最初は嘆息した。

本田宗一郎、高柳健次郎はじめ幾多の起業家を生んだ遠州（静岡県西部地域）、豊田佐吉も浜名湖の西岸新居の生まれである。また昭和の30年代には当時ブームになったバイクづくりを志すメーカーが浜松地域だけで30社以上生まれたと聞く。ちなみにその生き残りが現在のホンダ、ヤマハ発動機、スズキそして関連の部品メーカーである。

ハード中心のものづくりがソフト・サービスに取って代われ、遠州のこれまでの技術・人財の集積が役に立たない方向へ産業構造がシフトしたというマクロな背景もある。とくに心配したのは、経済環境だけでなく「やらまいか」に象徴される起業家精神そのものが萎えてしまったのではないかとの危惧であった。

しかしこの1年、HI-Cubeに入居している起業家、そしてこの地域のさまざまな事業家・起業家と交わる中で、可能性をもった「現代の起業家」が少なからずいることを知った。彼ら・彼女らは本田宗一郎のように大きな志をもち、新しい事業にチャレンジしている。景気回復に乗り遅れたといわれる地域経済において、筆者は希望の星を見たように感じている。

「現代の起業家」達は、インターネットや3D

データなどの技術革新、そしてボーダーレス化、アウトソーシングなどのトレンドをうまく活用し、ものづくりにしてもサービスにしても、あるいは両者を組み合わせて新しいビジネスモデル（儲ける仕組み）を創案し実現しようとしている。

浜松発の世界に誇れるビジネスモデルとして、ヤマハ（旧日本楽器）が50年前にあみ出した「音楽教室」がある。ピアノを売る前にユーザーを育て（教育）、発表会を開催（イベント）、調律（メンテサービス）、楽譜（ソフト）販売などのランニングビジネスもつくり出し、同社が世界の楽器メーカーになる原動力となった。現代の経営技術からも見ても感心するほどの仕組みである。

遠州の「現代の起業家」も、新技術にしる新サービスにしる、大なり小なり新しいビジネスモデルで起業するという浜松の伝統を立派に受け継いでいる。そのような彼ら・彼女らと出会うのが楽しみな今日この頃である。

ただし今後の課題もある。個人事業を脱し大企業とまでは行かなくても名のある企業まで成長するには、ビジネスモデルの進化・拡大というむずかしい課題がある。ピアノ教師と楽器店を囲い込み調律師の学校まで建てたヤマハや、中国の悪名高いコピーメーカーまで取り込み現地生産で先行したホンダなど、ここでも浜松発の先駆例が思い出される。

「現代の起業家」を掘り起こし、成長に結びつけるお手伝いをする事で新たな世界的企業が生まれ、それに触発されて新しい世代がつぎの起業家として名乗りを上げる。遠州を再び起業家のメッカにするのが筆者の夢であり、またそれは実現可能と考えている。

今号より新コーナーとして、IM5名によるリレー連載でお送りします。IMの熱い想いや知られざる素顔?が垣間見られるかもしれません。どうぞご期待ください。

■お知らせ■ 6月より月1回、入居企業様を対象としたHI-Cube懇話会を開催します。参加者が一つのテーマや各社の新製品について意見交換するなど、飲み物片手にリラックスした雰囲気で行いたいと思います。第1回-6月25日(水)、第2回-7月16日(水)、第3回 8月20日(水) 17時~2階会議室にて。ぜひご参加ください。



編集ノート

4月からIM室でアシスタントを担当しております、鈴木晶子（しょうこ）と申します。併せて、HI-Cubeジャーナル発行という大役も担当することになりました。入居者の皆様が気持ちよくお仕事できる環境作りに努めたいと思っております。美味しいもの探訪が大好きです。どうぞ宜しくお願いいたします。



【編集者・発行人】



中小機構 関東(独立行政法人 中小企業基盤整備機構 関東本部)

浜松イノベーションキューブ(HI-Cube) IM室

〒432-8003 静岡県浜松市中区和地山3-1-7 [TEL] 053-478-0141 [FAX] 053-473-7221 [E-Mail] hi-cube-info@smrj.go.jp

URL <http://www.smrj.go.jp/incubation/hi-cube/>

ハイキューブ

Click

平成26年6月発行